ディファレンス

えむばーど

バイクというものは、ほとんど生き物のようだ。理由もなしに機嫌が悪いときもあるし、かと思ったら別人、というか別物のように調子よく吹き上がっていくこともある。じゃあ、人間と機械の違いは何だろう？　多分それは感情が分かりやすいか否か。それだけだ。

だからきっと、僕は今、生き物ではなく機械だ。

ギアを落とし、アクセルを煽る。エンジンが唸り、僕はクラッチを繋ぐ。そしてアクセルを回すと飛び出すように加速する。雄叫びを上げながら。それはまるで、僕の代わりに泣いてくれているかのように。

※※※

僕はよく人生を間違える。男子高校に入ってしまったのもそうだし、受験をやり直したのもそうだ。多分、学部を情報系と決めてかかっていたのもそうだ。どれもどれも、間違い。でも、誰だって間違えるじゃん？　っていう向きもあるだろう。多分、僕は間違いを蓄積させてしまったんだ。同じ方向に間違え続けた僕は、きっと他の人より人生が不正解の方に追いやられてしまったんだ。

大学生活は、人生における大きなジャンクションだ。色んな環境、色んな地域で生まれた人々が一カ所に集まり、四年間という時を重ねる。そして、またそれぞれの方向へと飛び出して行く。

「僕は院に進むよ、僕は研究をするために大学に入ったんだ。ここからが、本番だよ」

「僕は就職するよ。日本だと、修士を取ったって学士のままだって、そう評価は変わらないからね。浪人しちゃってるし、もう学生は良いかなって思うんだ」

こんな風に語る僕の友人たちは、何も考えていないように飄々としていたけれど、覚悟をとっくに決めていたんだと思う。一方の僕は、一体何をしたら良いのか分からなかった。皆がそれぞれの人生の為の準備を進める様子を眺めていると、僕は苦しくて息ができなくなる。酒を持ち寄って飲みあったり、夜中突然の連絡があってどこかに遊びに出かけたり――そんな僕の日常（ゆめ）が、徐々に

社会(げんじつ)に冒されているようで、居ても立ってもいられなかった。

（続く）